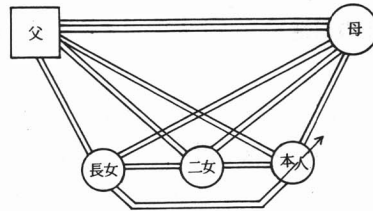


指導開始2か月後、10回目の面接時に実施したDATの結果は次の通りである。

検証尺度	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
危険性の段階	C (危険性小)						B (危険性中や大)		A (危険性大)					
パーセンタイル	1	10	20	30	40	50	60	70	80	85	90	95	99	
F. 家庭不応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
S. 学校不応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
E. 自己不応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
H. 対人不応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
P1. 性格1 (意志的)	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
P2. 性格2 (感情的)	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
P3. 性格3 (思考的)	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
N. 規範逸脱傾向	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
問題傾向 ASS. 反社会的問題傾向	男	-20	30	40	50	60	70	80	81	90	98	99	110	130
	女	-20	30	40	50	60	70	75	76	80	90	93	94	110
		ASS得点 (45) タイプ (√)												

この時本人が描いた家族システムは次のものである。



このシステムからみても、本人の意識としての家族問題が改善されていることがわかる。

8. 考察

DATにみられるように指導仮説に示した目標に向けて改善されつつある。

指導の経過中に直接問題行動にかかわる話題は本人との間ではでなかったが、担任からの情報も親からの情報も問題行動が改善されていることを伝えてきた。

特に部活動(卓球部)に熱を入れていた。はじめのうちは練習の苦しさなどを訴えたが、両親が交代で学校に迎えに行ったり、本人の好物を夕食に出してはげますことなどを続けたところ意欲的にとりくむようになり、ごく自然に友人関係が改善されてきた。

DATについてみると規範逸脱傾向について更に改善されればと思う。

両親、姉、本人、担当者での家族カウンセリングを実施した結果、それぞれの立場での苦しみや悩みを相互に理解し合える様になり、家族相互の会話が一層スムーズに運ぶようになり、家族としての結合が一段と強くなった。